

ワークショップ 「人工知能による 科学・技術の革新」

要登録・参加費 無料

第1回

データ中心 分子・細胞・神経生物学

将来の経済成長モデルでは、科学技術研究セクターへの人工知能の導入が支配的要因であるとする議論もある。近年の計算論的神経科学の進展に触発された人工知能技術の発展は、研究開発のありかたをどのように変えるだろうか。

第一回の今回はデータ中心生物学をテーマとする。言うまでもなく生き物は複雑である。非常に多くの要素が絡み合う超多自由度系である生命システムが背後に持つ原理は何か。マルチオミクスやライブイメージングなどの計測技術を総動員して取得した大量で複雑なマルチモーダルデータからこれを読み解くには、機械学習や人工知能技術が有効であろう。人工知能分野と、分子・細胞・神経生物学分野の一線の研究者を集め、新たな生命科学研究の姿について議論する。

4月3日(金)

13:00～

第一部 人工知能とデータマイニング技術の現状と未来

オーガナイザー：国立情報学研究所 市瀬龍太郎

予定演者：市瀬龍太郎 (NII) / 小林亮太 (NII) / 山川宏 (ドワンゴ)

第二部 生物学研究現場での人工知能への期待および応用事例

オーガナイザー：理化学研究所 高橋恒一 / 泰地真弘人

予定演者：岡田真人 (東大) / 泰地真弘人 (QBiC) / 田中裕人 (NICT) / 西本伸志 (CiNet) / 浜中雅俊 (京大)

場所

大阪イノベーションハブ

グランフロント大阪

ナレッジキャピタルタワー C7階

JR「大阪駅」より徒歩7分

地下鉄御堂筋線「梅田駅」より徒歩10分

阪急「梅田駅」より徒歩10分

プログラム詳細・参加登録はこちら

<http://www.qbic.riken.jp/aiws/>



主催

理化学研究所 生命システム研究センター (QBiC)

共催

大阪イノベーションハブ

後援

国立情報学研究所 / 脳情報通信融合研究センター (CiNet) / 人工知能学会